

テーマ

「多様性」の可能性と罣

—性的マイノリティーの運動現場から—

講師：前・関西クィア映画祭実行委員会メンバー **ひびの まこと** 先生

日時：平成26年11月13日(木)
14:50~16:50

場所：神戸市看護大学ホール

後援：神戸市外国語大学生協

要旨

日本のLGBT運動の中にも、女性差別やトランス差別や日本人中心主義があります。同性婚や同性パートナーシップがLGBT運動の象徴として話題になる陰で、不可視化されているものは何でしょうか。多くの人々を戦争で殺している米国やイスラエルの政府が、なぜLGBT運動を積極的に支援するのでしょうか。性的マイノリティーに「LGBTとしてのカムアウト」を強いる社会的カラクリを問うことが、私たちには出来ているのでしょうか。

関西クィア映画祭や各地のプライドパレードなど、性的マイノリティーの社会運動に積極的に関わってきた経験から、「多様性を尊重すること」の可能性と罣について、問題提起します。

注) LGBT：《lesbian, gay, bisexual, transgender の頭文字から》性的マイノリティーであるレスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーを総称したもの。

【参考文献】

- ・『アイデンティティを越えて』鄭映恵(『差別と共生の社会学』に収録・1996年)
- ・『女性学年報第15号 <特集>”マイノリティ”とフェミニズム』日本女性学研究会(1994年)
→<http://www.jca.apc.org/wssj/mokuji/nen2.html#15>
- ・『セクシュアル・マイノリティと入国管理 MTFトランスジェンダーの被收容問題』レインボー・アクション移民・難民問題を考えるプロジェクト(2013年)
- ・『たとえそこがどこであっても』ひびの まこと(自費出版/ZINE・2003年)
→<http://barairo.net/works/TEXT/Wherever/Wherever-j.html>